

公表	事業所における自己評価結果
----	---------------

事業所名	こどもプラス中山教室（児童発達支援）	公表日	R8年 2月 24日
------	--------------------	-----	------------

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○	日々の利用児童数に対しての人員基準はしっかりと満たしております。また運動遊びを実施しているため人員基準以上の職員を配置して活動に取り組んでおります。利用者の状況に応じて個別に対応できる体制を整えている。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		日々清掃・消毒を念入りに行い、環境を整えている。使用した運動器具や玩具等の消毒も行っております。整理整頓も行い、室内を広々と安全に使用できるようにしている。利用者の状況に応じて情報を簡素化し活動に集中して取り組める環境を整えている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		個別の部屋やないが、活動スペース以外でクールダウンできるスペースはある。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		毎日のミーティングと振り返りを行っている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		今後義務化されるなど必要に応じて対応していく。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○			
適切な支援の	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○			
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		専門的支援実施を行っているため、その記録をもとにこどもの現在の課題や今後優先的に支援を行っていく必要性のある内容を職員間で共有して計画書の作成時に取り組んでいる。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○			必要に応じて田中ピネー知能検査やWISC検査のツールを使用して今後の個別支援計画に活かしていく。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○			

提供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○	その日利用の子どもたちの発達の状態をもとに活動内容を組み立てている。運動遊びなので基礎運動をもとにタスクを増やしたり新たなルールを追加したりと取り組んだ運動遊びをレベルアップして固定化しないように工夫をしている。	
	19	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○	毎回、集団活動の後に静かな活動・年齢や個々の発達の状態に合わせて個別活動を実施しているので、その内容を発達支援計画書にも記載し支援を行っている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○	日々の支援の記録のみではなく、専門的支援実施記録もとっているためその内容をもとに次の活動のプログラムの立案や個々の支援の方法などの検証や改善を行っている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。			
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外泊研修に参加させているか。			
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。			
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○		
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他の子どもと活動する機会があるか。	○		必要に応じて活動の機会を設けるか今後検討していく。
	33	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○	当事業所ではペアレントトレーニング等は実施しておりませんが、外部の研修などの情報提供は必要に応じて行っている。	今後は保護者からの要望等に応じて計画していきたいと思っております。	
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○	契約時にマーカーを利用し、わかりやすく丁寧に説明を行っている。		
36	児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○				
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○				
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		○			今後に向けて必要性を考慮しつつ検討していく。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○				
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		ホームページや日々の連絡帳で活動の様子はお伝えしている。 連絡体制はLINEと新たにもう一つ連絡ツールを導入して利用している。		保護者の方にHPの存在を分かり易く周知していく。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○				
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○				
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○			今後に向けて必要性を考慮しつつ検討していく。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		必要に応じてSNSにて保護者に取り組みを周知している。また、避難訓練は年に2回実施しており、月の活動予定表やホームページにて実施の様子を伝えている。	全ての保護者がわかりやすいように活動予定表やホームページにて実施の様子を伝えているが、まだわからないという方がいるため、全ての保護者がわかりやすいように周知の仕方を検討していく。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○				
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○				
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		○	児童発達支援では食事、おやつ提供は無し。		
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○				
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○				
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○				
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○				
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		組織的に決定しているが、身体拘束を行う必要のある該当児童は現在いない状況。			

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもプラス中山教室（児童発達支援）		
○保護者評価実施期間	令和8年1月17日		～ 令和8年2月7日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	34	(回答者数) 29
○従業者評価実施期間	令和8年1月19日		～ 令和8年1月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月14日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<ul style="list-style-type: none"> ・柳澤運動プログラムに基づいた支援プログラムを提供し、脳科学の裏付けのもと児童の成長に繋がる療育を取り入れている。 ・作業療法士などの専門職の知識を生かして職員間で支援方法を共有しながら日々の支援に努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・こどもプラスのFCポータルサイトで資料や活動内容の確認を行ったり、絵カードの作成や研修動画を視聴するなど役立っている。また、支援を提供する職員は運動保育士の資格を有し、こどもたちの発達の状況に合わせて支援プログラムを立案している。 ・専門的支援実施を行い、記録を細かくまとめることで子どもたちの現在の課題やニーズが明確にわかるようになっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日々、支援の振り返りで、職員間での情報の共有を行い次の支援に活かすために取り組んでいる。 ・専門的支援実施記録を元に子どもたちの課題やニーズについて職員間で共通理解を図り、より専門的な支援内容を模索している。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の様子を写真で保護者にお知らせすることにより、児童の療育での様子や姿が視覚的に分かりやすく伝わる。 ・児童の送迎を基本的に行っているため、保護者が送迎する負担が無く通わせやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の方が療育の様子が分かり易いように写真を活用した連絡帳を作成している。 ・送迎についても児童が安心して利用できるよう点検や送迎マニュアルの確認、保護者や各園との引き渡し方法を明確に決めて対応している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡帳をPDF化して保護者にLINEでお知らせをしている。 ・また、新たにLINEアプリを導入し前日に利用日のお知らせを行い、LINEで気軽に連絡が取れる体制を整え、送迎の変更等にも臨機応変に対応できるようにしている。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・運動遊びを実施しているため人員基準以上の職員を配置して活動に取り組んでいるので、利用児には手厚い支援を行っている。また、多機能型の施設のため放課後等デイサービスの職員と協力体制を取り必要に応じて支援を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童発達支援、放課後等デイサービスともに人員基準以上の職員が配置されているので、児童の様子に応じて職員が個別で対応ができるように協力体制が整っている。また、不測の事態にも速やかに対応を行えるように連携が図れている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の体制や利用人数や送迎など前日に互いの状況の確認をして協力体制がとれるようにしている。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者同士の交流の場や研修等の機会を設けられていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者同士が直接交流する場や研修等の機会を持つための具体的な提案などが特に上がっていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者からの要望等に応じて計画していく。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・他事業所や保育所、幼稚園児との交流の機会を設けられていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公園活動の時にその場で遭遇した時には単発的に交流をとることもあるが、実施に向けた具体的な提案などは特に上がっていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性を考慮しつつ検討していく。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図れていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実施に向けた具体的な提案などが特に上がっていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性を考慮しつつ検討していく。